



## 外国出張報告書

平成 26 年 10 月 17 日

1. 出張国名      ガーナ・ブルキナファソ
2. 出張月      平成 26 年 6 月～7 月
3. 出張目的      保全農業作付け体系下における昆虫相評価：A

#### 4. 成果の概要

ガーナのエジュラにおける野外調査の進捗状況を把握し、問題点等についてガーナ作物研究所の昆虫研究者と再検討を行った。

また、エジュラより北に位置するガーナとブルキナファソの調査地域で問題となる主要害虫について情報を収集した。

その結果、トウモロコシやソルガムでは幼苗期に害虫や鳥などの食害を受けることが多いという情報を得た。しかし、地域ごとに状況は少しずつ異なり、ブルキナファソのサリアではマルチだけでなく耕起の有無にも大きく影響を受けることが明らかになった。また、トウモロコシやソルガムが幼苗期以降は大きな害を受けることがないのに対して、輪作の対象となるササゲでは収穫のためにある程度定期的な薬剤散布が不可欠であることがわかった。